

令和6年度 市長を囲むキャンパストーク 意見等まとめ

メインテーマ：函館の「未来（10年後）」を考える

サブテーマ①：あなたにとっての未来の函館の理想像は？

申込時に記載の意見等をグルーピング		当日の趣旨説明等	
継続性 (7件)	<ul style="list-style-type: none"> ・100年後も続くまち ・持続可能なまち ・住み続けられる ・人口減少・少子化対策 ・発展はなくても「魅力」があるまち 	uipro さん (公立はこだて未来大学)	函館市は、大都市である東京や大阪とは違った魅力がある。五稜郭や公会堂など、古くからある魅力を活かして、心が安らぐようなまちを続けていけたらいいと思う。
発展性 (9件)	<ul style="list-style-type: none"> ・娯楽施設・観光施設 ・交通機関の充実 ・自慢できるまち ・札幌より/札幌のような/札幌に次ぐ ・情緒，歴史は残しつつ 	たてれんさん (函館大学)	<ul style="list-style-type: none"> ・娯楽施設等をもっとほしい。 ・函館市は広いので，まばらに設置するのではなく，集約してほしい。
継続性&発展性 (11件)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致 ・地元産業の活性化 ・人口（若年層・移住者）の増加 ・若者が活躍できるまち 	ssk さん (北海道大学大学院水産科学研究院・水産科学院・水産学部)	学生団体 ISARIBIwith を通して若者がまちのために何かできないかと活動をしているが，継続するためには企業にも参加してもらう必要があり，そのために企業を国内外から誘致してほしい。
観光 (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・空家活用 ・地元民も楽しめる ・国内外から 	ずしさん (公立はこだて未来大学)	大学の空家活用に向けたワークショップへ参加したが，西部地区は高齢化の進行により空家が増えており，上下和洋折衷の建物を観光に活用しないのはもったいないと思う。
子ども (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがのびのび ・子どもでにぎわう ・子どもが楽しく 	でぐちさん (函館大谷短期大学)	授業で理想の幼稚園を考えたときに子どもたちがやりたいことができること，のびのびと自然に触れあえること，大人も含め様々な年齢層と関われる環境がいいと思った。
多様性 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層から高齢者が協力 	まえださん (公立はこだて未来大学)	多様な世代とプロジェクト学習を行うことで，一つ上のステージに上がれると思う。
国際交流・平和 (1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流や教育が盛んで平和なまち 	さくらいさん (ロシア極東連邦総合大学函館校)	相手，異文化を理解することがお互いの平和を生み出すと思うので，国際的な交流を続けていってほしい。

サブテーマ②：そのための課題と解決策は？

uiro さん (公立はこだて未来大学)	今の函館市は「観光」により過ぎているのではないか。美原地区では毎年バスの本数が減っていて、レンタカーの事業者は観光地にしかない。移住者が住みよい、なじめるまちにしてはどうか。
-------------------------	---

【意見等を受けて…】

大泉市長	<ul style="list-style-type: none">・観光だけでは定住人口を増やすことは難しいと思っているが、観光は都市ブランドの確立に資するので、これからも注力したい。・くらしの中で、高齢者の移動手段を担保することが問題となっている。AI を使った乗り合いタクシーの実証実験を行っているが、運転手が不足しているバスについても路線などについて工夫していきたい。
陳内氏	<ul style="list-style-type: none">・観光が「見る」だけでなく「体験」に変わってきている。持続可能な観光のためには、観光が函館ブランドに寄与していることを見える化することが重要かと思う。・観光産業は世界で一番伸びる産業であり、選ばれる函館市、新しい観光施策をどう作っていくかを若い世代と考えていくことが大切だと思った。

しろとさん (函館工業高等専門学校)	子どものためのイベントをやっているが、イベントなので1回限りで終わってしまう。継続的に遊べる環境が必要だと思う。子どもは障がいなどを区別せずに遊ぶので、インクルージョンにつながると思う。
-----------------------	---

【意見等を受けて…】

大泉市長	子どものうちに遊びを通じてインクルージョンするのは絶好のチャンスだと思っている。
まえださん (公立はこだて未来大学)	自分で地域を変えていくという行動のプロセスを教育で受けられていないことが課題だと思う。地域・道南を変えていけるという体験ができる教育施策が必要だと思う。

【意見等を受けて…】

大泉市長	教育を受けているうちに課題解決を体験する機会を設けられないか、先生たちと一緒に意見交換していきたい。
いどさん (公立はこだて未来大学)	未来大学の就職先の多くを占める IT 企業が函館市には少ない。函館市として企業の誘致等を進めてほしい。

【意見等を受けて…】

大泉市長	大学卒業後に転出することが悪いことではないが、函館市に残りたい学生やUターンしたい学生にフィットする会社や仕事がないケースがある。企業誘致やスタートアップを盛んにすることだけでなく、転出した学生に函館市の企業を周知することは難しいので、小学生のうちから函館市で頑張っている企業等を知ってもらう取り組みを進めたい。
阪口氏	大学には卒業した先輩がいると思うので、なぜ函館市に会社を作らないのかと圧をかけてほしい。それができるのも学生のうちだけだと思う。

【サブテーマ②を通して…】

陳内氏	<ul style="list-style-type: none">・課題解決のためにデジタルや生成 AI をどのように活用し、未来のために実装していくか。・若い学生世代が課題解決のアイデアを出し合う場を作ることが重要かと思う。
-----	---

阪口氏	函館市で若いうちから働くメリットは、面白がってくれていろいろな人が連絡をくれたり、大したことなくとも新聞に載ったり、破天荒なことをしてもおもしろがってくれて、普通ならできないことができちゃう。小さいまちだから若者がやることに寛容だし、若いというだけでこのまちではアドバンテージになる。
-----	--

サブテーマ③：10年後の未来で活躍するためには？

やまださん (函館工業高等専門学校)	学生団体 ISARIBIwith に参加し、いろいろな人で出会ったことで、この人たちとならいろいろなことができると思う、函館市に残ることを考えている。挑戦することで褒められ、人と出会うことができる。新しいことに挑戦しようとしたときにサポートしてくれる環境と挑戦することを恥ずかしくせずに言えるメンタルがあれば活躍できると思う。
すがさん (公立はこだて未来大学)	観光中心の西部地区と住宅地の美原地区や学生・現役世代と高齢者など、函館市には隠れた分断があると感じている。人とのつながりにフォーカスし、お互いが分かり合えるようになると函館市は一気に盛り上がるように思う。
しのへさん (函館大学)	高齢者が多いことで高齢者向けの施策が多く感じる。自分たちが声を出していくこと、チャレンジしていくことで若者にとっても住みやすいまちになり、地域活性化につながると思う。
あずみさん (公立はこだて未来大学)	小さすぎず大きすぎないサイズが良いところだと思う。また、性別や障がいに関係なく話しかけてくれる人の良さを感じる。対話から得るものもあるので、対話という小さなところにアンテナを張っていれば活躍できると思う。
ながおさん (函館大学)	海外からの人との交流の機会を増やすことが未来で活躍するきっかけになると思う。
ひらはらさん (函館大学)	地元の人には観光や企業、人の優しさなど函館市の良さに慣れてしまっている。教育の現場に函館市の魅力を伝えるカリキュラムを取り入れることで、若者世代が函館市に残るための目標が見つけやすくなると思う。
大泉市長	<ul style="list-style-type: none"> ・東京では飛びぬけたことをしようしても難しいが、函館市の人口、サイズ感は地域社会を変えられる、課題解決のチャンスがあると思う。 ・若い世代が多く転出しているが、今は女性が多く転出している。その原因を一つ一つ潰していくことは大事だと思っている。 ・函館市の人々が観光客など市外の人にどんどん話しかける、良い意味でおせっかいな人が多いことは強みにしていきたい。 ・令和5年の統一地方選挙では、10%近く投票率が上がっている。職員には、今若い人が行政に興味を持ってきているから、若い人を巻き込んでいくよう話している。若い人がチャレンジできる環境づくりにも取り組んでいきたい。 ・地域の高等教育機関のほとんどが参加し連携している ISARIBIwith の活動は、先日視察に来た鈴木北海道知事も感激していた。 ・「みかん箱」のような苦しんでいる子どもの第三の居場所、学習支援の場はどんどん増やしていかなければならないと思っている。 ・国際的な教育、国際コミュニケーションがより先進的に進んでいくようなまちにしたい。公立の教育を向上させることは難しいが、学校が来てくれたり今ある私立学校が変わっていくような仕掛け、支援をしていきたい。 ・定住人口の増加、企業の誘致には、函館市が持つ財産・カードを全部使わな

	<p>ければならない。気づいていないカードを含め、実はカードはたくさんあるのだが、中核市の中でももっとも人口減少が早く進行していることから、カードを切っていくだけでは足りない。ゲームチェンジできるような骨格があって初めてカードが切れるので、それが何かを外からの意見や若い世代の意見を聞いて考えていきたい。</p>
陳内氏	<ul style="list-style-type: none">・シェアリングという言葉がキーワードになると思う。皆さんが話し合ったことを解決するときに課題をシェアすると意外と早く答えが見つかったりする。ハブ（持つ）ことを目指すのではなく、シェアすることで幸せに近づくと感じている。20歳くらいの皆さんがどんどんアイデアを出して、市に提案していくと未来が明るいまちになるかなと思う。・この場で終わりにしない、持続可能にするために、今後どこに就職しても函館に思いを寄せたときにその思いをシェアできるよう、今つながっている方との縁をキープし、つながり続けることが重要かと思う。